

**長期増分費用方式に基づく接続料の
平成31年度以降の算定の在り方について
(追加質問への回答)**

2018年2月27日

KDDI株式会社

追加質問への回答

質問4 2022年度以降、事業者間のIP接続が開始されると、PSTNトラフィックが減少するので、実績トラフィックを用いて接続料を計算するとPSTNの接続料単価が従来を上回る割合で上昇することが予測される。事業者間のIP接続開始の順序・時期は必ずしも当該事業者の都合ではなく、他事業者との調整で決められるであろうことを考えると、実際に用いられている接続方式に対応した接続料単価を用いることが必ずしも適切ではないと考えられる。どのような接続料算定方式を用いることが適切と考えるか。また、この件に関して事業者間調整の場ではどのような議論がなされているのか。

2023年1月以降、実際にIP-POIを経由して加入電話（メタルIP電話）への着信が開始されることから、PSTN接続料とメタルIP電話の接続料をそれぞれのコスト及びトラフィックを用いて別々に算定してしまうと、IP網への移行に伴ってPSTN接続料単価が大幅に上昇することが予想されます。

そこで、PSTN接続（加入電話）とIP接続（メタルIP電話）を区別することなく1つのIP-LRICモデルで接続料を算定（実際の移行工程は意識せずに、全ての加入者が既にIP網に収容されているものと仮定して、コスト及びトラフィックを算入）し、算定された接続料を、PSTN接続（加入電話）及びIP接続（メタルIP電話）の両方に適用すれば、移行期における事業者間の公平性を確保することが可能であり、また、IP網への移行に起因した接続料の急激な上昇等を避けることも可能となります。

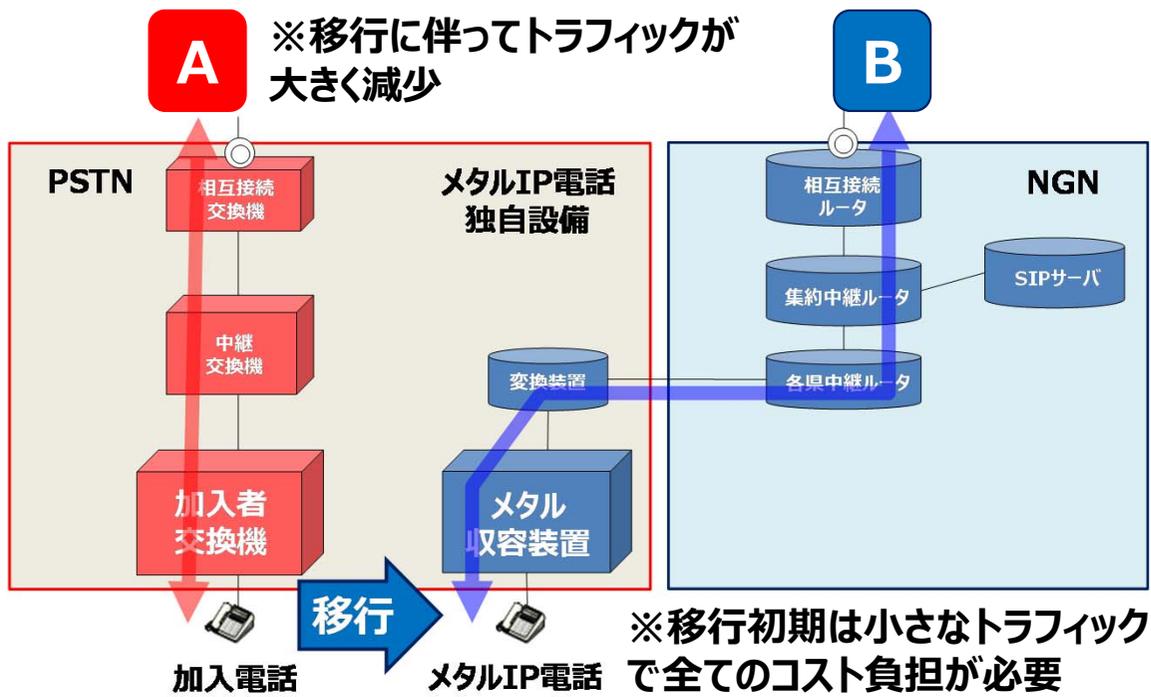
事業者間では、技術的要因を考慮した呼種毎の大まかな切替順序の議論は行っておりますが、具体的にどの事業者がいつ切り替えを行うか等の切替順序性や手順等については、まだこれからの議論になります。

IP網への移行期における接続料算定の在り方

加入電話からメタルIP電話への移行に伴う
事業者間の**接続料負担の公平性を確保**するため

1つのIP-LRICモデルで接続料を算定し両方の接続料に適用

別々に接続料を算定した場合



接続料水準の急激な上昇

接続料水準が高額の恐れ

1つのモデルで接続料を算定した場合

